

2021年度事業計画

岡山商科大学専門学校

1 現状と課題

(1) 在学生数推移

2021年3月18日現在

	2019年度		2020年度		2021年度	
	1年	2年	1年	2年	1年	2年
トラベル観光学科	5	2	8	4	3	6
まんがネットショップ学科	5	6	2	4	3	1
事務職養成学科	5	2	8	5	3	8
大学編入学科・国際総合ビジネス学科（留学生）	60	51	71	52	56	61
キャリアアップ学科	0		0		0	
キャリア専攻学科（留学生）	29		22		10	
学年合計	104	61	111	65	75	76
合計	165		176		151	

各年度数字は5月1日現在

- ① 全校生徒数は、日本人の学生数が昨年より7名減って24名になった。留学生「国際総合ビジネス学科」の学生数は大きな変化なく117名であったが、キャリア専攻学科が12名減少したため、昨年より全体で25名の減になった。
- ② 2020年度までに学生数を150名とする「岡山商科大学専門学校 学校安定化推進計画」の「基本目標」を新たに策定する必要があるが、コロナの影響で先が読めないためもう少しの期間、状況の変化を見据える必要がある。

(2) 学科について

① トラベル観光学科

- ・2020年度は常勤教員が1名増えて2名になったが、学生の就職でコロナの影響が一番大きな職種になった。その影響は今年度も続くと予測される。
- ・国際総合ビジネス学科の観光やホテル関係の科目も担当することになるので、学科間の連携強化を図る。

② まんが・ネットショップ学科

今年度も入学者数が低迷している。ガイダンスでは興味を示す学生が多くても受験に繋がらない状況にあり、具体的に学科改編を進める必要に迫られている。

③ 事務職養成学科

- ・今年度の入学生には大学3年次編入を希望する学生もいる。
- ・岡山商科大学3年に編入ができることが、他の専門学校にはない本校の特徴であることがまだ十分に認知されていない。
- ・大学や高等学校の既卒者をターゲットにした広報を進める必要がある。

④ 国際総合ビジネス学科

- ・今年度AO入試では、優秀な学生が多く受験したが、コロナの影響もあり一般入試ではその数が大きく減少した。しかしコロナ渦にあっても学費の支弁に大きな問題を持っている学生は少ない。また一般入試では志願者数は減少したが優秀な学生が受験し入学したので、今まで以上に学習成果を残せるよう教育内容の充実を図る。
- ・2年生は多国籍で学習意欲の高い学生も多いが、コミュニティー能力の低い学生も在籍しているため、企業との連携をより深めてゆく必要がある。

⑤ キャリア専攻学科

2020年度はコロナの影響で学生たちのアルバイトが減り、借入制度などを活用している学生が多く経済的に困窮していた。今年度はコロナの影響で志願者数が予測していた3割弱しか集まらなかった。求人数も減る状況ではあるが、早期に就職活動に取り組ませる。

(3) 施設設備について

年次計画で進めているエアコンの更新を重点的に行う。

2 事業計画

(1) 附帯教育（岡山商科大学との連携）

2020年度は、コロナの影響もあり開講できていなが、コロナの影響を考慮しながら再開に向けた計画作成の検討をする。

(2) 連携教育（高校との連携）

① 高等学校

ア. 連携教育講座の実施

・附属高校との連携

総合学科の進学系列、総合進学コースや総合学科の情報ビジネス系列との関係を深める。

・商業系高等学校（総合学科を含む）との連携

2022年度から商業の科目として観光産業振興のための「観光ビジネス」が新設される。この科目の新設に合わせて、周辺高等学校や地域との連携を模索し、「まちづくり」について学習を深め、本校トラベル観光学科の魅力のひとつとする。

イ. 体験授業

コロナの影響と、高校の取組の変化で、2019・2020年度の2年間は参加がなかった。高校側の考え方の変化が主な要因であるが、学科の授業を体験してもらえるよう計画したい。

② その他

2020年度は、「学校見学会」等の申し込みがなかった。高等学校の生徒達が学校訪問の際受け入れが可能なことを周知していく。

(3) 広報活動（入学者確保）

- ① 2020 年度の日本人対象会場ガイダンスはコロナが大きく影響し、全体の参加者が激減した。今年度もコロナの影響が心配されるので、効果が高いものに絞って参加する。

高校生対象の校内ガイダンスは、学校紹介とトラベル関係に絞って参加する。

- ② 2020 年度の留学生対象の会場ガイダンスは参加者も多く、入学まで繋がった事例が多く見られた。

今年度は、岡山市や高松市・福山市で開催されるガイダンスに参加し、「国際総合ビジネス学科」の広報を重点的に行うが、日本語能力試験の2級以上に合格すれば日本人学科が受験可能なことも伝える。

- ③ インスタグラムを活用して、地域（例：岡山・香川・松山市以外の愛媛・米子市周辺と松江市周辺など重点地域として定める）と年齢（16才～24才）を絞って広告をかけ、リーチ数とクリック数から広報の重点地区を決定し、効果的な広報につなげる。

※レポートの分析をして広報戦略に活用する。

- ④ 岡山駅のデジタルサイネージを活用して、10週間広告を出す。

※岡山県で一番多い人通りの場所にデジタル広告を出す。

- ⑤ ホームページの更新をすることによってアピール力を強くする。

- ⑥ 県内に限定している指定校を県外にも拡大する。

(4) 情報公開

- ① 「大学等における修学の支援に関する法律による対象機関」として必要な情報公開を継続する。

- ② 学校関係者評価を継続し、委員の評価結果に基づく改善を進める。

今年度は、主に地域貢献活動の取組を進める。

(5) 教育の質向上

- ① 留学生の教室に「プロジェクター」を整備しているが、まだ十分に活用されていないため、ICTを活用したわかりやすい授業を推進する。

- ② 昨年度実施した授業評価から、授業の質の向上を図る。

(6) 人事管理

- ① 自己目標シートを活用した目標管理により、PDCAサイクルを構築し、スパイラルアップを図る。

- ② より組織的な学校運営ができるよう、校務分掌や担任業務、ビザ管理について組織を明確にし、管理系統やタイムテーブル、学生への指示を見直す。

- ③ 少人数の利点を活かし、明るく風通しの良い職場環境を構築する。